

ある家族の有無、借金の有無、体に具合が悪いところがある)を説明変数とし、「今のまま」「都市雑業」を選択したか否かを被説明変数とするロジスティック分析を行った。

表2 無希望の規定要因(今後の希望=「今のまま」「都市雑業」)
(ロジスティック分析、サンプルは男性のみ)

| | 「今のまま」のみ | | 「都市雑業」 | |
|----------------------|-------------|------------|-------------|------------|
| | 係数 | Odds.Ratio | 係数 | Odds.Ratio |
| 切片 | -2.2392 *** | | -3.9082 *** | |
| 45～55歳未満(*) | 0.0169 × | 1.017 | -0.1649 × | 0.848 |
| 55～65歳未満(*) | 0.0423 × | 1.043 | -0.0635 × | 0.938 |
| 65歳以上(*) | 0.2934 × | 1.341 | -0.4797 × | 0.619 |
| 野宿期間(通算)(Q3) | 0.0875 *** | 1.091 | 0.0925 ** | 1.097 |
| 野宿期間(通算)二乗 | -0.00146 ** | 0.999 | -0.0023 * | 0.998 |
| 野宿期間(今回)(Q4) | 0.0996 *** | 1.104 | 0.0748 × | 1.078 |
| 野宿期間(今回)二乗 | -0.00317 ** | 0.997 | -0.00311 × | 0.997 |
| 収入(0～5万未満)(*2) | -0.0693 × | 0.933 | 1.5795 *** | 4.852 |
| 収入(5万以上)(*2) | 0.1107 × | 1.117 | 1.5992 *** | 4.949 |
| 自立支援センター経験有 | -0.5785 ** | 0.561 | -0.415 × | 0.66 |
| 音信のある家族あり | -0.1951 × | 0.823 | -0.5152 ** | 0.597 |
| 借金あり | -0.3484 * | 0.706 | -0.4882 ** | 0.614 |
| 体に具合が悪いところ有 | -0.2222 * | 0.801 | -0.3439 ** | 0.709 |
| n | 1924 | | 1924 | |
| R sq. | 0.0563 | | 0.0425 | |
| Max-rescaled Rsq | 0.0915 | | 0.0936 | |
| Log likelihood Ratio | 111.0249 | | 83.3328 | |

路上生活期間や健康状態をコントロールすると、年齢自体は「今のままでいい」「都市雑業」を選択する要因とはなっていない。「今のままでいい」を選択する確率を大きく上げるのが路上生活期間(通算)と路上生活期間(今回)である。しかし、二乗項が負で有意となっているため、路上生活期間が長期化するとこの傾向は緩まると考えられる。収入が高い人は、「都市雑業」を選択する確率が高くなっており、すでに路上においてもある程度の収入を得ることができる人が、この選択肢を選んでいると考えられる。「収入」を現状の生活水準がほどほどであることのパロメーターとするならば、先に述べた二つの相反する理由の前者の理由が支持されているといえる。

自立支援センターの経験者は、「今のままでいい」を選択する確率が低く、これは自立支援センターの入所によって現在の路上生活の満足度が下がった(上記の生活水準の分析から示唆される)のか、「今のままでいい」としないからこそ自立支援センターに入所したのか判別が難しいところである。

「音信がある家族がある」ことは、自棄的になることを防ぎ、路上生活からの脱却を希望する(=「今のままでいい」「都市雑業」を選択しない)要因になると予想されたが、この影響は「都市雑業」には認められたが、「今のまま」には認められない。逆に、借金があったり、体に具合が悪いところがある場合は、自棄的になると予測されたが、共に、逆の

方向を示している。つまり、借金がある人、体に具合が悪いところある人のほうが、ない人よりも「今のままでいい」「都市雑業」を選択する確率が低い。